

シリーズ「授業風景6」

～「人権学習」の実際～

2024・12・4 重枝 一郎

この授業のテーマは、最初から一貫して「協力」「団結」です。この言葉自体も、生徒から引き出したものです。言葉は何だってよいのかもしれませんが、「絆」であろうが「一致団結」であろうが。

重枝先生は、「相手の立場を考える」とはどういうことなのかを、「したことは理解する」というレベルで、生徒に教えようとしているのです。

「協力」するとは、こんな行動をとることですよ。「団結」するとは、こんな行動をとる人がいないということですよ。それを、くり返し、くり返し、具体的に教えています。

「協力」「団結」という言葉の意味を、何となくイメージでとらえさせるのではなく、行動レベルで教えることで、集団の質を高めようとしているのです。そうすると、生徒たちが意識して、友だちが安心する行動をとるようになるからです。

きっと、重枝先生からの刺激が入ったことで、この後の班長の行動が変わると思います。「協力」「団結」ってこういうことなんだと実感したら、「行動」が変わってくるのです。

それができていなければ、重枝先生はまた、きめ細やかに教えるでしょう。また、できていたらそれをすかさずほめ、集団のルール・マナーにしていくでしょう。その積み上げによって、生徒たちの行動の質が高まっていくのです。その変化に伴って、重枝先生の刺激の入れ方も柔軟に対応していきます。

こうして重枝先生は、「協力」「団結」する行動のとれる、生徒集団を育成してきたのだと思います。

生徒に刺激を入れる「ポイント」はどこなのか。

それは、先生が瞬時に判断すべきことです。

また、刺激の入れ方も、バリエーションが必要です。

ピリッと場を引きしめ、緊張感を与えるような話し方であったり、しつとりと落ち着いた気持ちでじっくり考えさせる話し方であったり、ほんわりとあたたかな気持ちになるような話し方であったり……。

生徒たちは、場を与えたからといって、勝手に成長するわけではありません。

先生のきめ細やかな指導で、成長していきます。

生徒たちを自ら学ぶ主体にするためには、先生がまず、教える主体になることを決意しなくてはなりません。つまり、生徒たちを主体的にするためには、まずは先生が率先して働きかけ、これからしようとする活動の意義や目的を、説得力のある話し方で語るのです。具体的な行動をはっきりと示し、生徒の共感や納得の感情を引き出しながら、生徒の挑戦意欲を高めるのです。

先生の指導は生徒の主体性を育み、それを強化するためのものです。生徒たちに、自らの課題は何か、なすべき行動は何なのかを考えさせ、選びとらせるのです。

生徒が本気で自分自身に向き合うようになるために、先生はめざすべき行動や考え方

の意義や価値を、わかりやすく示すのです。今、何をすべきか、何が大切なのかを、そして、生徒の感情を揺さぶるように語るのです。それが、生徒の内面にストーンとおちたときに、生徒自ら、変容していくのです。

重枝先生から、次の指示がでます。

「班長さんが、班のみんなの書いた内容を聞いていきます。できたら、言葉だけでなく、気持ちも聞いてください。それが終わったら、班の意見として模造紙にまとめて書きます。質問はありませんか？」

しばらく待ちますが、質問は出ません。

「言いにくそうな人がいたら、助けてあげてください。言っても大丈夫だからって、助けてあげてくださいね。私が見ているのは、そういうところですよ。みんなが協力できるのか。班の5、6人が協力できなくて、このたくさんの人数が協力できますかということですよ。

細かいことですが、話し合うときに、声の大きさを考えていますか？ みんなが大きな声で話し合ったら、隣の班の人は迷惑です。班で頭をつきあわせて、つぶやくくらいの声で、友だちに自分の書いたことを伝えてください。授業中の話し合いでも、すべて同じですよ。つぶやいて伝える、それが聞こえる、その距離をつくってください。響き合う関係が、一番意味も感情も伝わるからです。7分間です。スタート！」

生徒たちは、活発に活動をはじめました。

身体の内側に「ありがとう」「大丈夫」「やさしいね」「すごいね」「ナイス」……次々と書いていきます。

身体の外側には、胸が痛くなるような言葉が並びます。

途中で、重枝先生の「ストップ」の声がかかります。

重枝先生は、ひとつの班に注目させました。

「この班の姿が、先生がいいなあと思う姿です。この距離感です。離れた距離で、よそよそしい雰囲気でも話し合っても、感情が交わらないでしょう？ 本当にその人の嫌なこととか、してほしいこととか、真剣に聞き合って、この絵を完成させるんです。まずは、このメンバーです。まずはこのメンバーで思いやるんです。いきなりここにいる全員ではできないでしょう。はじめに学級目標を確認したでしょう。完全に守れていないでしょう。こういう、まず身近なメンバーからしていくんです。もっと、引っついてください。それでは、あと5分で完成させます」

重枝流、きめ細やかな指導が入りました。

モデルをはっきり提示して、どの距離感がいいのか、それはなぜか、どういう意味があってそうするのかを納得させています。

「ラスト1分」重枝先生の声が響きます。

《次回7に続く…》